

# J R 総連通信

2023年9月27日 No.1678

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

## 「地域から創るローカル線の維持・活性化にむけた 中間総括・検証会議」開催！



JR総連は9月22日(金)、目黒さつきビルにて「地域から創るローカル線の維持・活性化にむけた中間総括・検証会議」を開催し、JR総連推薦議員懇談会共同代表・末松義規衆議院議員をはじめとする国会議員の方々、各地でローカル線の維持・活性化にむけて活動されている地域代表の方々、この間、地域から取り組みをつくり出してきた各単組・労連の仲間とともに、今後のさらなるローカル線の維持・活性化にむけたたたかいについて意思統一を図りました。

議論の冒頭、「5.20 政策シンポジウム」以降の取り組みの到達点を確認するとともに、10月1日に「地域公共交通活性化再生法(地域交通法)」が施行され、今後は再構築協議会での議論が焦点になることを共通の認識として確認し合いました。それを踏まえて、地域代表の方々より、「JRは公共交通としての使命がある。赤字だから切り捨てるのはもったいなかである」、兵庫県香住地区観光協会からは「JR西日本は今年3月のダイヤ改正で、宿泊客が帰りに利用していた列車を廃止した。これから冬の観光シーズンを迎えるが、JRは地域を見捨てるのか」との厳しい意見も出されました。その他、JR北海道労組より、「2016年にJR北海道が公表した単独では維持困難な10路線13線区の沿線56市町村に対して、赤字の原因は国鉄改革のスキームが破綻したことであり、国鉄改革のスキームを正しく知ってもらう取り組みを、組合員と一緒につくってきて現在がある」など、オール北海道でたかってきた教訓などが語られました。

JR総連はこの会議を次なるステップへの足がかりとして、地域との連帯・共闘のさらなる拡大と、10月1日以降の具体的取り組みにむけ、とりわけ再構築協議会へ参画することをめざし、ローカル線の維持・活性化にむけて、地域・利用者の声を訴えていくことを確認しました。